

二羽のからす

1 わたしが一人で歩いていると

二羽のからすがぼやき合い

一羽のからすがいうことにや

「さて今日は 何処でごちそういただこう」

2 「荒れはてた城壁の向うに

殺られた騎士がさらしもの

あのさまをご存知なのは

騎士の鷹と獵犬と愛人

3 「その獵犬は狩りに出かけた

鷹は獲物をとりに出かけた

愛人ははや 別の情夫に首ったけ

そこでおれたちや ごちそうはいただきというわけさ

4 「あの白い首の骨はおまえのもの

おれはあの青い眼をついばむとしよう

あの騎士の金髪を一房拝借して

崩れたわが家の屋根ふきしようか

5 「騎士を探して 多くの人が涙ぼろぼろ

何処にいるのかわかりやせぬ

肉を剥がれりや 白い骨に

風がいつまでも吹きつける」